



北京市中心部では高層ビルの建設ラッシュ

生活に欠かせないスマートフォン決済

昨年、中国におけるシェア自転車の急拡大や日本への進出が新聞紙上ににぎわせましたが、こうした新しい動きはスマートフォン決済の普及と無関係ではありません。

中国では現在、北京、上海、広州といった大都市を中心に、スマートフォン決済が急速に普及しています。前述のシェア自転車以外にも、タクシーの手配や支払い、料理の出前やネットショッピングの注文・支払いだけでなく、多くのレストランやスーパー、さらには露天商でもスマートフォンを利用した支払いができるようになってきました。このため、都市部では現金を持ち歩かない人も増えています。

スマートフォンによる注文や配車は、利用後にサービスに対する評価ができる仕組みとなっています。利用者によるこうした評価は第三者に公開される場合もあり、その後の商売等に大きく影響するた

め、サービスの向上を促進しているとの指摘が多く聞かれます。最近では、タクシー運転手も評価を気にしてボッタクリが減少したとの声も聞かれます。

高層ビルの建設など経済のハード面の発展が進む一方、サービスなどのソフト面の発展は遅れていると多くの中国人自身が評しているところですが、スマートフォン決済の利用拡大は、ソフト面の改善に大いに役立っています。

こうしたスマートフォンによる注文・支払いは、大都市のみならず農村地域へも広がりを見せており、今後ますます拡大していくと予想されます。中国は、減速したとはいえ高い経済成長を続けており、依然変化は早いです。こうした新しい動きを間近で観察できるのは、中国で生活する上での醍醐味といえるかもしれません。 (日本銀行北京事務所)

*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



レストランでのスマートフォン決済の様子